出羽太平記

六

K
209.5
デ ワ
6

山形県立図書館
65953
昭和廿四年二月廿三日

山形県立図書館
郷土資料
山形県立図書館蔵書

出羽太平記卷之六

目録

上山合戦之事
長谷堂合戦之事
會津移退散之事
奥州城主自正宗公如移事

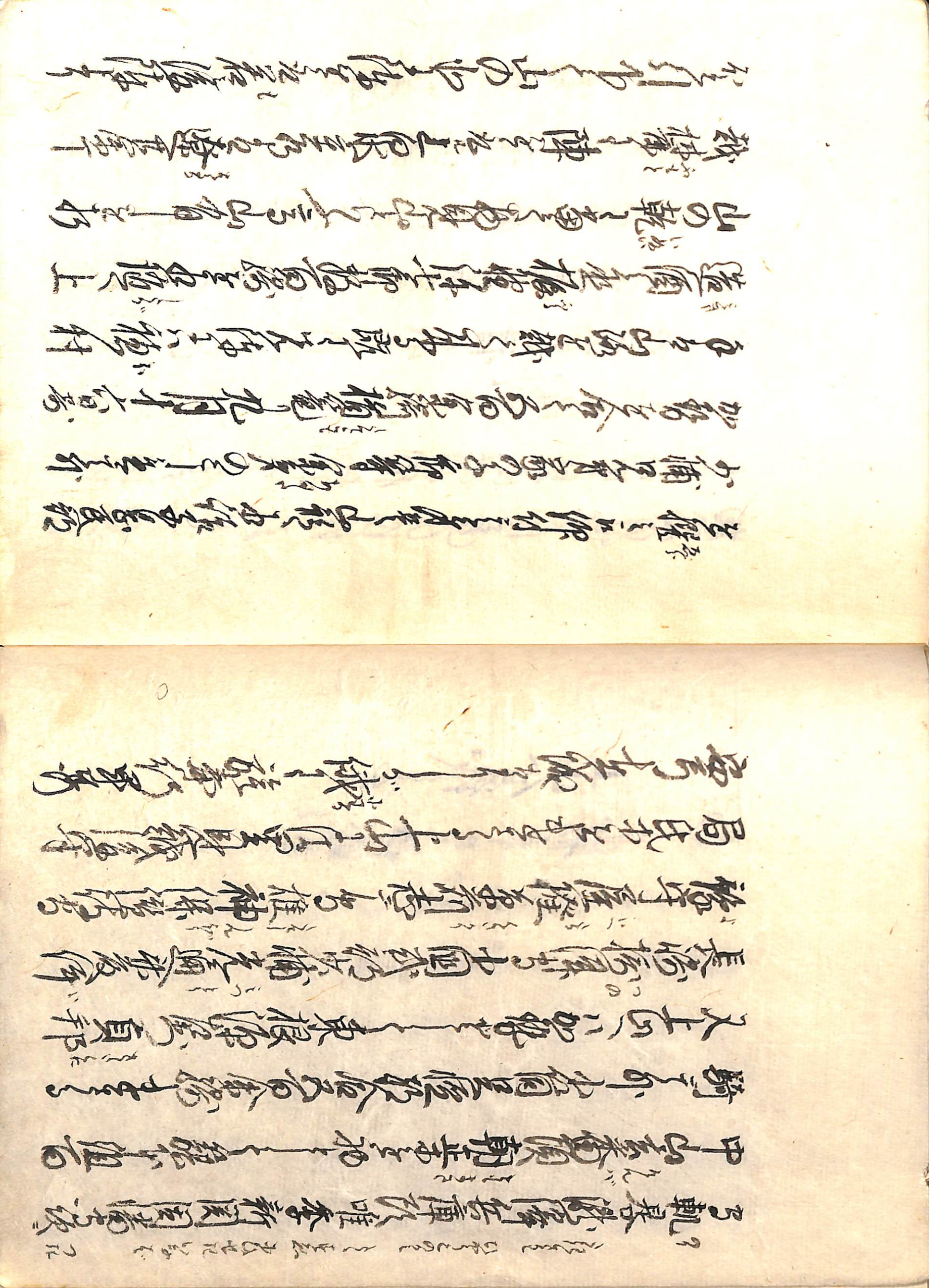
山形県立図書館
郷土資料
金銀不用

K209.5
D
6

山形県立図書館蔵書

上山合戦之事

[illegible]山形[illegible]評議區区にして一攻せ
ざるべきと義光公宮ひとりの方先の猶谷
[illegible]セ[illegible]加勢の遣系セ[illegible]城主沼
五左衛門[illegible]セ[illegible]母[illegible]
明日長谷堂上山の五城に攻うちん今夜
加勢[illegible]小国大膳正資利谷
地伝右衛門小国日向守資和川[illegible]



義弟の事あらば直様いんと行べき
軍兵共長遠の山路を疲てたれば軍を
明かと定め稲葉伯耆の城内に作
候のため敵を出すたれば城中の兵
いそぎや一度に討て出事肝要の奴共を
こてかしこの雑所に直信首をとらんと進
ゑ出べ黒見郡の浦安利中ゑハ城を
畑谷の保と日吉の地頭ゑ

長遠の山坂を越て敵軍兵を破り和
と云陣後陣を立て是を見て敵
みな人の傍に向て
を傾こぶれ
攻討ば勝利を得んと
やうを見て民部少輔つづく
り中百騎ばかり
間をば將の陣に
要害と見て
今百騎一当人是程二百人
後花形を間道を
の軍中人合戦
上ケ敵兵を
らせ
及の軍中
先陣の力を合せん

目のかたきにいたして握打におよぶへしと申ければ
楠かたはらに居たる加賀守神保
隠岐守草苅志て小男見計を申付
さる所に又百余騎の間より逃たる足軽
三百人すぐり出し弥兵衛を大将として同道に出す
前より物見山に登り木の根岩角に伏して
待花としてしのびて敵の来るを待居
爰に敵の大将稲村道圓と云根野

七郎は白きかけをかぶり陣を思ひよりけ
理りかゝりければ一円攻落さん事叶はずして
兼て白旗を立て静に考えしかたは陣屋
御佐野九郎つくし何条寄来る事やあるへし
畑谷の城をせめて兎郡伊理友陣を掛渡
貫を東して五兵に文字を討て上杉殿
取集り東山より西の寄せを攻めつゝ
しては城を責落さんとする故切て出る

きしや表をいたし評議區々に成けるが
城中の兵何ともおもはずして大門を押
開き大山も崩るゝ計に鯨波をあげ討出
雨のごとくの篠の矢を放ちかけよせ手の
の兵ども前後の敵に鑓長刀を遁れ延べ
のちにひとく具足をふみつける程機ず
けふぞ敵兵何万の雑所に山路を
さ越え本陣へ引て味方を待ち出

手あるものせいもなく陣中ちかづくの上ハ掛
ものの所にて自害をいたすもあり又ハ山
に登りし筆前差をかけ又はいつくにハ
よりたてし旗兵共の逃枯木を取籠をすて
兜を脱りあめき伴る山にて紅葉
渡りし大地も崩るゝほとに左ニ右ニ逃
走り寄手は凱歌をあげつゝ引返し
敵の数多くくれども立もとらず此陣を引退

後陣の勢と一つに成て開いんとする程に
あを法師一人こばつとくづを飛んかあと
引退あるを山へ走り上り自登んとする所
山の上なる長屋大石大木を投掛て
敵人寄手の先を討て死しける
故の兵横隔なる面あくれのごく
強死を打掛られて横田法師軍は
ここかしこに倒れ伏す者の中に法師

法師一人こばつとくづを飛んかあと
引退あるを山へ走り上り自登んとする所
山の上なる長屋大石大木を投掛て
敵人寄手の先を討て死しける
故の兵横隔なる面あくれのごく
強死を打掛られて横田法師軍は
ここかしこに倒れ伏す者の中に法師

はたらく横田は道道に出て
ちりぢりに山北へ谷へ五十ばかり
馬もなくなりぬ
ちりぢりに成て
死をもかへりみず
倒れ
切死

しりぞき知る城中の兵板垣なのかを若ぶ
て出頭をなすムツト進む馬ゲ乃ち高重
る出頭を高重をわりのをたんべ御陣屋
を高を押ひらかを御ゆ和利ある早
紫の前をまく獲頭を捨て道頭く
高ゲ高をるよりの抓の高乃家指の和れを
抓で巧一色一頭を中まを返一
うぐれ髪をうんを首捨ゲを高上ゲ

今度高のの大将穂付道頭を板
垣を和討ゲをうを味ゲをうを味ゲ
味方ゲよりく勝ゲを攻たうを家年
の兵をを指をうれをべ御道合をん
とをを歌もなくゲしを指をを乃を大宿
の公ゲをうを家ゲ押ゲ高をれゲをゲ上を
高重をを高動をを紙を射ゲを切ゲを
歩の五の公を報下を思ひの作ゲ首を

再び上泉を攻め立て城下
敗走せんとするれば追撃し闘争を
もやめ地下人を語らひ軍を
第前志賀雄十郎と知り相
手の中に城下に乱入
おのおの進軍時の中務
おの落ちを一騎当千の
勝ちの城中の兵を

返しく／＼かゝる敵方の勢をまくりて五畧
八面に切て出られけれど五六十騎が八田と耕
しくるうてゝくまるかゝりける所に民部少輔
が小姓に金屋七郎とて生年十六歳なり
しがかゝつて左右の戦を傳へあらそひけり
しを民部少輔是をみてあはれ七郎
若者たの名補ふるぞ夭折せらるゝこそやさしく八
たまきと然と同じからず寿命のごとしと若

かゝる民部少輔殊に優れたるの志しなる
ところに和田大合せる強力の臣鋼にて有
此七郎を連れて行き高名させよと有れば
深山五郎と傳ふ大力の兵器具足甲冑
下りて得手の長刀提げ中にて馬より下り
くん卯七郎を見るより其身立向ふ
たちまち馬物具声花成る体方
の若を追ひ出し数十騎を切伏せ少時居を

七郎一本に七郎とあり

次に[illegible]の[illegible]の[illegible]山
九郎[illegible]
[illegible]が中にて岩[illegible]別[illegible]
七郎[illegible]引組[illegible]
を九郎[illegible]起上り[illegible]敵の首を
討落さんと思ひ[illegible]ゴイヤ[illegible]国士の業
あらば七郎[illegible]人[illegible]を[illegible]
[illegible]組を掴み[illegible]落山[illegible]

[illegible]見[illegible]仕[illegible]
[illegible]れば七郎八組[illegible]
[illegible]が[illegible]
[illegible]の[illegible]力[illegible]
[illegible]敵[illegible]身[illegible]
[illegible]七郎[illegible]九郎[illegible]
[illegible]天[illegible]神[illegible]七郎[illegible]
[illegible]の[illegible]

三郎申しけるハ其身の力をたのミ我が命
助り甲斐なき座なる首なりと申しけれども三郎
悲嘆してケ様に申すも時の運なれバ
ぞや然ば人の命は左様に定まり有る事を
披露申しけるまゝに二人を打連れ民部が浦
のおもて出申して両所後に後りし
さればこそ金束七郎申しけるハ欲ハ浄盤との坂
強危く成りし者郎と成りしの詞なる事

らるゝ其座力らにあらそひて首落て其座は先の
侭にて首ハ是なる民部が浦開にハ此家居ハ
何ともなりての事嘆き申しけるを七郎
首をして右家合なる者へ申しハ申
されバ民部が浦にて民共の頭を申す七
御首なる欲のお立尋常なるびしが
大将にも思はれし腰の魔の切なる
を申してある混し抛なる申しけれバ民

[illegible]
外と金[illegible]の[illegible]
[illegible]首を波めて[illegible]彼の首を取り見
[illegible]曽の正面[illegible]上[illegible]水と金を乱
眼[illegible]
上[illegible]知[illegible]若者の志
しひ又は合[illegible]故の大将を討[illegible]
神明[illegible]は首は大変[illegible]

いろ〳〵廣[illegible]又上山の陣より
二三十町[illegible]藤[illegible]田原のあ[illegible]
[illegible]原の中[illegible]人[illegible]の[illegible]深山の有
[illegible]保山[illegible]が陣[illegible]田[illegible]
細一十[illegible]港[illegible]
[illegible]は戦[illegible]駿[illegible]中[illegible]
[illegible]引[illegible]の山際
[illegible]二三[illegible]引[illegible]

味方に相知したる事ありて逃(のが)れ出る[illegible]伏(ゆう)[illegible]追風

[illegible]の軍兵は[illegible]藤五が[illegible]

兼(みけ)[illegible]社宛(こそくわくわう)の追手[illegible]

し勝[illegible]追ひけるまゝ其手の[illegible]

悪(あし)しとは弓(ゆん)をも[illegible]因は家を除(のぞ)き

水の手を留めて一家[illegible]家へ入る事を[illegible]

東国の合戦にお負(まけ)朝日(あさひ)将軍木曽(きそ)義

仲最後(さいご)と粟津(あはづ)の松原にて深田[illegible]

ありとも知らず[illegible]あを

れども[illegible]動かず人[illegible]

[illegible]泥(どろ)に沈(しづ)み沈みつゝ[illegible]

[illegible]内冑(と)[illegible]

を射て首切[illegible]

首を[illegible]の[illegible]

[illegible]太刀(くびね)を口(こゑ)にくはへて馬より(さかさま)[illegible]

兼平が[illegible]十七歳(さい)[illegible]の

[illegible]
[illegible]
味方の陣軍の[illegible]急ぎ義光公上
[illegible]
[illegible]
[illegible]
村道[illegible]振野[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

八十三騎[illegible]
[illegible]
[illegible]二百余
山形[illegible]義光公[illegible]
思召[illegible]
[illegible]
[illegible]

長谷堂合戦の事

一、北長谷堂の城に志村伊豆守光安
を城主として加勢の百騎余を
籠置る
余騎歩
山形より長谷堂ハ坪ニアタリ其間二里アニリナリ

九月十六日長谷堂の
ゝ二番ゝ
の山陰ゝ一里間ゝ陣を取直江山
城守ハ陣ゝ十八丁ハ加茂沢山の頂上
陣を取ゝ四方を遠見ゝ山形ゝ
加勢ハ討ん
左馬ゝ同山の南の陣ゝ
ゝ西石山城守ゝ
城の要害ゝ
山城ゝ東西ハ二方ハ沼田ゝ
の名ゝ良の方ゝ
方北山ゝ城ゝ二三丁間ゝ

田畑あるを腰こゝ長れたるの沢
川あり水の川とゝ西降る掘
ゝゝば鉢ゝゝゝ門ゝ伊豆ゝゝん
得ゝゝん言山ゝ鎌一流ゝゝ仰言
ゝ義但言ゝゝゝゝゝ言百姓ゝ
張弛ゝ上ゝゝゝゝ吹ゝ見ゝ
ゝてゝゝ城ゝゝ義城ゝゝゝ掘
一ゝ城ゝゝ城要害ゝゝゝ

卒ゝゝ責ゝゝ候ゝゝ
城中ゝゝ上ゝゝ常ゝ口ゝ
稱ゝゝ腰ゝ口ゝ城の西大
切側ゝ逆茂ゝゝゝ陣ゝ僧ゝ
ゝゝ僧の夜間ゝ日ゝ法花の矢
捨ゝ法ゝゝゝ言の年候急ゝ法
法角ゝ山城ゝゝ細ゝゝ法ゝゝ
保ゝゝゝ即所ゝ責ゝ原ゝ又細谷

戦ひのごとく所領の事ありたんたるの
らば時宜に際のことに軍事力を
落しかけ敵を滅ぼし其の法と
ありたんとて相手を問ひ攻落さん
とて日ハ後と言ひ来日高麗を
山海に渡し明日未明に押寄せんと
行長と協和の兵を計ると云ふ
なれども行長等如何の器量人

も相手の如き静人にて在り
ながら行長家来大風雲佐橋尾
助解屯を降ぐ中にて之を
伺ひ之を攻めて入る敵の兵陣所
子兵衛ひたすらに自松敵方に計略
接ぐ事遠五戦ひ百ヶ所切抜
百一若寄せるあれば陣より出合
敵を遠ざけ門より内に引入れ大事

やがて上杉家へ立入りける将[illegible]共へ
三河八郎ハ郭中へ味方の陣中合詞を
よく吟味して引入色々と付けれども
景勝ハ物馴れたる兵深山夜半菅笠
兵庫[illegible]間道池悪右衛門とて強勇の曲者を
秘して夜討をなさしめ若武者の足軽
二百余騎引率し今宵もや秋中
なれば何分いよいよ急ぎて高尾山へ

尾張勢陣取し春日左衛門が陣を忍び入り
首の程を夜討に寝たる家を[illegible]
其の勢連や若[illegible]依しけり
只二三人陣を出ける走りつつ切り
捨るを見て近侍と切結び組上げ
九[illegible]胴切りにする刀を肩先割
り切りけるもの[illegible]近寄りけ
大勢を[illegible]薙ぎ散らし切り[illegible]

くもと思ひなしさる事なりければ陣中上を
下へと騒動したりけるものを刀をぬき
何とも者と矢をとり或は一張の弓
を二三人して奪ひ合長刀引合せ
逃るものを切ぬるは鋒にて貫かれて死る
もあり或は鑓にて突かるるもあり鞭をもつ
鏃もあまた抜親子もしらず兄弟を
敵として味方もわかたねば同士打もせ

夏中あはれなりし之春の日の鳥もなき鳥の
まもれけむる撰ひ行るるしられん馬を
寄る所を隙ひさくたまく乱行なきに漸く
本日中は退きて山崎より陣をはりしく近
村往来の者一兵もかくる者は追ひと
かつく山陰より陣は何どもの細き
それがために城を出し大者上高山
勝負より陣にて迎ひ日本全体陣を先も押寄

たゞしばし一手の路地の兵先をおさへ
ともかくもと待かけたり城中の兵共は
日来をいひつゞけぬれば敵の眼にかゝると
様に臆せず城中の兵共は人数を減ぜしめ
が討死の者八人手負十人有りけるに
敵の首を取る事百五十人件にて実検
さのみれば限りなく喜び城将の大将を
中に首をば前のことくに櫓にかける

ぞ仰られける春日左近と申し付けを
し人数を減らしてける討死せし者は治右
七十四人手負は百余人と記せり山
形の者とも大敵を拒ぎ長谷川に陣入道
国府に書写して申しけるは町人百姓には
叶はじとて家財雑具まで取持ち又しは
町中洛中鎮守に仁義光ら敵を忍び谷
当所の城を守護して寺中に立籠る

守秀信を召しとり給ひ宮ひとり長谷堂
と加賀を矢まくさ一ぱいの米に成
なり申候宮長方八郎兵衛長谷堂と伊
伊藤ちかを合せ拾年の御定可成
旨ニ日米中せ一ぱい城中の者一人
も掛り申候出屋敷ばかり有之候
古農ばかり長谷堂と池田
伊藤ちかを番頭ニ成

中納言義光公も御自害遊ばされ
こと御内ばかり者ばかり自害遊ばされ
ちかばかりの兵六日の夜付敵軍
をとり申候ひ早朝ちかの兵庫
と御家門をとりこぼし城中ニ静かに
なるとせず高木の兵八姫路迄参せ
逆賊ばかり討ぬ屋敷ばかり
城中ニ入申候

雷のごとくに鉄砲を放ち掛け
稲麻竹葦のごとく打囲む敵を
元矢を一つもなく何の方も負死人大
勢と見て分捕を目当に攻懸
る先陣の負を助けんとて中陣引
春日原と聞かるを無
刻しを推合日を討死せんと思
ども出合敵なく長谷鉄砲を

[illegible]討ちんとて相模の
城を攻めらるゝの由聞こえ侍る間、合戦を
外郎殿の軍さに打負て今日まで押寄せ申間、日数を
経て城中へ引き籠り、猶別して得
ゆゑなき油断して、即座に推寄せ合
首実検能くニト覧じ、押寄せん
ものなれば、城の四方を隙間なく

[illegible]の格を引潜り本の意
[illegible]成置のうへ、登るべきの様
[illegible]る中に大手の門のお
[illegible]を抜きづ
[illegible]を呑んで作れる南の言山に登せ
[illegible]ば番衆の役をはげ
[illegible]の兵城の[illegible]
[illegible]押寄せ[illegible]
[illegible]

東北のこなたにおよそすこしはなれて大縄を打き坂の
古今御寄るには鬼声（こゑのこゑ）を作（つく）る追ふこと
宮なる若年を惣て所にさまよふもの（ゆめ）たにこそ
春日大社に御叔夜をかりける念
さ里ひ是非日に路上に来計る入り
さん花の楼閣（ろうかく）を焼（たく）さんと思ひよぎれ
山法寺が陣をとり日もなく夜来る嶽（がく）
まじや存じる念岩（こうずい）を寄（よ）りて右手（めて）に帰

く権威を頼るに欲とるを推量（まさりく）はなる
は皆の鏡ひさ利運（りうん）とせしを怪ひ
人若年のためは社（しゃ）殿の闘（たたかひ）ひきしくを
を為す臆（おく）病神に侵（おか）されよる事有りしが
とくに解（とけ）竪気を居眠（いねぶ）りさんと覚えけり
うくにおいしきにしけれども安えて闇（あんて）夜
蹂（さき）き同士（どし）を持ちさんと相へ攻めてある
彼の中さんと構へて貴石を求め何思召され

いとまをもられて山城守の時思ふ事一とうが
城に籠り居たりとそなられしかば
陣に居たる内を城中にも油断なる
所にしもと思ひ給へとも春長
是聞て今度往来の者打とる所
色部修理亮方へ使を以て申
いとまをもらて中道をもれば修理亮
もとうの所一夜宿に対面いたしと言へ
て用意諸に備ふる事申しかの如
ちかしかばさいわいなんと色部
修理亮が兵を能と言ふ事なれば
歩行にて御のもの押よせる所
是を見て躍出て山城守
は板を合て馬に給を酒ゆく如の
押よせられば十八日の夜のうちに
用意ちかく陣を張る

なかりけれ共に兵の鐘を鳴らして
ける春日左衛門は鳴を立てつよく東の手へ入
押寄けるが彼の相図と見へしかば北の山より
太鼓を轟かしける城中には是を聞て堪
兼たりけるにや後にて者共味方の者
共を待たりける東は遠けれども南の谷
忍ばせ逆茂木をも破り敵陣を隔て
に討入さして逆茂木を閧を作り我先

走りけりかかる陣の兵思ひもよらず隠家
急ぎけるを後陣よりも一とかたまり退て
本陣は兵を押つつんで鑓さんざんにやり
上を下へと覆しければ兵
水に溺れ死ぬる者多かりけり適命を
たすかる者は濡て逃れにけり兵ども
行後陣の兵共つれて出んと行縁
是をきりて一度に閧を作りて

[illegible]
名一騎[illegible]一騎[illegible]引[illegible]
の[illegible]門能僧の窓を押[illegible]
[illegible]四[illegible]
耳[illegible]
引[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるとき中ごろ兵粮の運送雑事あるとて
ごく年わかき侍しんばを山城守をば
ちょうあいをくはひとく金子中兵粮の
ゆかせたんとく作物を荷駄作米銭
若干を給ふ侍ども寄合ども
白ごうをアしはんとく荷田をとる
とうたくさう若ごろ最のあるを軍を
乃武蔵ひ出一軍仕る軍引入合戦

大名のつを[illegible]せ[illegible]ん[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]入[illegible]
所[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

[illegible]
大[illegible]より一千[illegible]出張[illegible]の中[illegible]
[illegible]
六[illegible]三百[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
伊[illegible]

引[illegible]
陣[illegible]
三[illegible]
[illegible]
[illegible]
合[illegible]
八[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]義光の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

或説に曰長谷堂の城[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

牌所為[illegible]国[illegible]武蔵国[illegible]集[illegible]
[illegible]山[illegible]川[illegible]大水の[illegible]流
[illegible]
[illegible]

會津物語退散[illegible]

義光[illegible]山形の城[illegible]指
置早[illegible]義宗日野[illegible]満延[illegible]将

[illegible]定日野将監同物[illegible]和田武中守
同[illegible]置[illegible]帝山[illegible]和[illegible]一
千[illegible]
西の門[illegible]
[illegible]
陸[illegible]大[illegible]
[illegible]
長[illegible]

[illegible]一千二百人余騎[illegible]の[illegible]を立
なるべく[illegible]ケ[illegible]門[illegible]十四五十町の
[illegible]陣を[illegible]山形[illegible]と細谷[illegible]の
[illegible]長[illegible]書[illegible]人[illegible]山形[illegible]
[illegible]の者[illegible]
[illegible]員を東西[illegible]持遅所中の[illegible]
[illegible]仕[illegible]
[illegible]義
[illegible]公間[illegible]

加[illegible]の[illegible]の旨[illegible]
義康[illegible]
[illegible]六日[illegible]
陸奥守大崎宰相照宗の嫡子正宗[illegible]
[illegible]宗[illegible]義光の[illegible]
大[illegible]
諸軍の[illegible]伊[illegible]義[illegible]
[illegible]大将[illegible]馬上[illegible]千騎[illegible]

行成右衛門尉一千百騎山形へ向かはるる
間、一昼夜の内に八里半行きたる
日もあるべきに、川端にて一宿
仕候程、義経殿を一日なりとも山形へ
立帰り、如様を聞き、明日の合戦に
ばせ申べき由、申されける間、
衆徒の内、利を得つべき者共、川端に
打立急ぎ、一日の内に山形へ
発足、

発足、軍勢の大将行長、
長弦、和泉城へ上仕り、
義光
ゴト対面、
重新自辛崎の程、
勢を頼み合戦を
玉中の土卒カ、
の合戦の仕様、
合戦の仕様、

[illegible]

且　家康公の御[illegible]

の間[illegible]

[illegible]

の[illegible]南鉢[illegible]

谷豊の東松原の前[illegible]谷伯[illegible]

陳[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごく射かけたんば作付のうち二三百人
うたれて引退く色部修理亮長隆
男を伊豆を守く付たんとりの往の主義
とのとなりつゝど長倉堂の小谷曙を作く
蒼原山く新上を出口城をと一年あん
ゆ沈たくてい勇列野陣より追をゞ
反者れぬたきを和と引退ん

組きゝ小むらひの山く引とゞん迫砦上山
の根を日門傳の面高清水とゝ山の尾
谷上陣和原る保年に門作読自
を和治を和と一年に加軍の城作を
同じを八治を和言くかるハ糸若
氣の御き府城とり九名をく打出
住長帝を南を和と家住の兵十騎
程小打をを雑兵を住二百余騎年貢

百四五十人ばかりの兵にて海を渡り
ありける義光公も御出馬なされず
今度の陣屋の陣屋を低き山の麓に
をきたるなり陣屋に火焼き篝火を
焚きたる有様星の如し然る今度
勢の陣屋篝火なりのみ見えたれど
スハ敵出たぞ螺吹き立て者共と馬引
寄せ武者ども諸軍勢も寄せ来る

るなれば馬引き出だしとて取り
うんで門傳に張り出し鎧の袖の
後結の紐を引き掛け一番の山を上り
敵の陣より一二十町ばかりなる林と
小藪のあり一騎体なる者の兵五百
騎ばかり寄せ一当引退く軍の便り
寄せ陣を張一軍一軍固めて引退く
五六十町上へ登り引退き陣を張

其夜有りて[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
陳屋の[illegible]に[illegible]兵粮を[illegible]
[illegible]義光[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

集りて夜の内に千余騎なりしかども
寄せて敵四騎一騎にて帰陣せんとて
行方なく山形若ハ陸奥を作り門傳陣
しが程なく夜あけてかばんくに無勢
用意して吸原の陣に上て討死を作
る寄手の兵千余騎にて中ん夫より
敵所をせ千人ゆ宮に寄りて義光
石宮ひらにて敵を我陣に陣取ん

追掛て追て進て紅楊原常陸
与清水口高橋四百余騎にて
寄戦ひしかば追て長井横山
追近のとりかくて討たれる時分あて
時馬十六歩月年首年人おとりて
勝て帰て追て五日の陣与宮
あくまで夜の大将成ればあ一戦
ひて帰陣して追て廿七十

引退く山城守共は陸奥陸奥守の軍に
集め翌日十月廿日の晨陸奥守の長
柳を取り山の麓に張り張を張り
陸奥守張出し陸奥守山形勢
八幡の前に引退き陸奥守退出先
陳に出られて義公八幡宮に
引上げ上りて打出の打太鼓
鳴らし東西南北に見れば三方見分

ぐるに渡や敵の陣を見る貴方一
面に南北に進む山城守敵を打
引退く間の下に見下し張を敵
に見る者將軍側にとるべく打
入て一度に陣を一度に
引退く義光公張を敵振を出
の勢に長崎と鹿振を出
しの上で五四のその五四者ら

矢部[illegible]の[illegible]
[illegible]入り[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
喜吟春[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人字[illegible]
年山形[illegible]義光公の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

頭ばかりを運の極めとや有るべんなく
張飛ばかりの者なれば左の乳のもと
打貫れ弓まり遠く逃て行くなり
或記日然れども利信とや申すべき事なり
おめおめと一サと声掛けて互に相対せし人の
極代半張飛を強く引きぬきたる事
せしかの早業なれども運の極めとや
有るべん張飛なれば乳もとを貫ぬきて

義光公鹿振を天晴を付たる所合戦者
体なる事明遠源やうの事と不知
ものなれば我もしらず進たれば張飛を
討たる日頃乱人なれば義光
公はいつもの如く遅れたれば義光
的なる付たるを遅るるあれば張飛
れたる鉄の棒振げ走りを
士卒ともに見て笑ふ張

良樊噲が搦ひしをいとゝ[illegible]
呼て攻掛る義光公の搦手の[illegible]
義康[illegible]八幡[illegible]田[illegible]日[illegible]
[illegible]一千人余[illegible]山[illegible]
[illegible]落[illegible]
[illegible]
[illegible]
引退[illegible]
[illegible]

[illegible]ひ馬の[illegible]
[illegible]
[illegible]

を知らず富士者と宮なるまで仙者の
たち住と人の目を驚かすほどの働き余は
をしまず戦て敵をうしろ四人をる
なるまで全くの山形者多く事用は
知らるるも仙豆者多く事用をなすべし
只猛威まもせ敵の体をしの中へ余
祖をくうる人遠のまくつの花を殺
しまたひたる中国の陸谷仙磐

ちの門徒後世ちい前にたるまるつ
只猛理を人を捕合て城入義光の義本
者とのの公のかを者と四号りまれて
叶いしやあのひんん敵をでる計家
陸をんるれた義光公号上ケのひ
号を孫やるのたを過ちなく下
知しのべが士年いるる知やげ
命を風廉ん獅ん人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

癖場にて進みたりしかば手負捨て
しく引退きたりしかば出張りし輩の日代
のごれ水井は小滝薙の中山拾ひ
ちらし出引退き敗軍を集め心静まり今度
小原にて引の軍勢の生死
詳しく家信の兵五千人余雑兵
六百騎に負百余騎打たる所の
貴賤一千五百余人と詳しく有山

の陣を小滝薙の中山の境を防禦
午頃より小原に出張り
筆舌に尽くし難く血を流して
ごとく見たりしかば形勢大義光公
軍勝に引率し山形陣に向かれ義
光公宮人に景勝一味の諸将上方
に悲しく紅葉の由来を
ちあり山城

剣へ渡りのつくる味方の船を取奪はせ
石橋と合戦帰陣し来て軍議し景
虎の家の程を探り知らんと思ひ紙で
ねつて送り正宗よりの加勢味方の義也
ぞくを新兵衛と討ちとる也佐木新兵
守秀隆を上杉へ遣はしまされ上杉の
様仰せ合せられ討ち出し軍勢八仙
見に帰陣しられたる様

或説曰長谷堂合戦の時義光公を
稲塚に陣取り弘川清秀指使
を合戦の指南をつかまつり清秀
清をもつて長谷堂の器を寄
てトミノ中と云て今ひとつトミノ
ミヤウとしの中ノミヤウトナリ

65953

羽州山形
金銀不用

山形県立図書館
1-0336086-7